

第2回 久留米市まち・ひと・しごと創生会議（議事要旨）

1. 開催日時

平成27年10月6日（火）16時30分～17時40分

2. 会場

久留米市民会館 第一会議室

3. 出席者

座長：榑原利則市長

副座長：橋本政孝副市長、深井敦夫副市長

委員：14名

本村康人委員、佐藤清一郎委員、権藤尚彦委員、農塚博俊委員、内田幸子委員、
佐藤有里子委員、宮崎宏子委員、永田見生委員、坂井猛委員、甲斐能枝委員、
鹿田哲委員、古賀忠委員、吉田輝彰委員、吉岡マサヨ委員

4. 欠席者

緒方義範委員

【議事次第】

1. 開会

2. 経過報告

- ・これまでの検討結果について
- ・政府関係機関の誘致について

3. 議事

- ・久留米市人口ビジョン（案）
- ・久留米市キラリ創生総合戦略（案）

4. その他

1. 開会

■事務局（國武総合政策部長）

定刻前ではございますが、委員の皆さまお揃いでございますので、ただいまより第2回久留米市まち・ひと・しごと創生会議を開会いたします。

本日はご多忙の中、ご参集いただきまして誠にありがとうございます。事務局を担当しております、久留米市総合政策部の國武と申します。どうぞよろしく願いいたします。はじめに、前回、都合によりご出席いただけませんでした委員を事務局からご紹介させていただきます。

高等教育コンソーシアム久留米理事長の久留米大学学長、永田見生 様でございます。九州大学新キャンパス計画推進室、教授、坂井猛 様でございます。

一般社団法人久留米銀行協会副会長の福岡銀行執行役員、権藤尚彦 様でございます。なお、本日は、久留米市農業協同組合、代表理事組合長、緒方義範 様にご欠席でございます。

それではここからの進行は、副座長の橋本副市长をお願いいたします。

■橋本副座長

皆さまこんにちは。本日の会議の進行を務めさせていただきます、副市長の橋本でございます。どうぞよろしく願いいたします。

本日は大変お忙しい中、第2回久留米市まち・ひと・しごと創生会議にご出席いただきましてありがとうございます。

6月25日に開催しました第1回会議から、早3ヶ月あまりが経過いたしました。この間、委員の皆さまをはじめ、関係団体や多くの市民の皆さまから貴重なご意見を頂戴しました。とりわけ、皆さまの団体などから参画いただいております、創生会議分科会、経済雇用専門分科会では、活発な議論をいただき、貴重なご意見・ご提言をいただきました。関係者の皆さまに対しましてあらためて御礼申し上げます。

本日は、6月の第1回創生会議でのご意見をはじめ、各分科会での議論、提言なども踏まえてとりまとめました原案についてご説明をさせていただきます、最終のとりまとめへ向けたご意見をいただきたいと思います。どうぞ、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に沿って進めてまいります。

まず、次第の2「経過等報告」でございます。事務局から説明願います。

2. 経過等報告

■事務局（甲斐田総合政策課長）

※「これまでの検討の経過について」説明。資料1（参考資料①～⑤）

※「政府関係機関の誘致について」説明。資料2

■橋本副座長

事務局より、「これまでの検討の経過について」そして「政府関係機関の誘致について」説明がございました。何か質問等ございましたらお願いいたします。

(質疑なし)

それでは次第の3「議事」に移ります。

久留米市人口ビジョン(案)、久留米市キラリ創生総合戦略(案)につきまして、事務局から説明をお願いします。

3. 議事

■事務局(甲斐田総合政策課長)

※「久留米市人口ビジョン(案)」について説明。資料3

※「久留米市キラリ創生総合戦略(案)」について説明。資料4、5

■橋本副座長

事務局より説明がございましたが、何か質問等ございましたらお願いいたします。

○権藤尚彦委員

人口ビジョンを踏まえ、この戦略で久留米の企業への就職率の向上や、就労人口を増やしていく雇用の創出に取り組んでいかなければならないと思います。また、初めて三つ星ライフの冊子も見せていただきましたが、私も久留米に去年から暮らしてまして、非常に生活しやすいまちだと思っています。医療も充実していて、まちもコンパクトで生活しやすい。そのことをもっとPRして、久留米での雇用創出のための取り組みに加えて、「住まいは久留米で仕事は福岡」という人を増やしていくような取り組みも必要ではないかと思いました。福岡の一極集中は避けられない流れなので、それを踏まえてどう取り組んでいくかというのが一つのポイントではないかと思います。私も初めて知りましたが、通勤定期の利用支援が月額1万円あることなどは知られていないと思います。このような取り組みをもっとアピールしていくべきではないかと思います。

■橋本副座長

ありがとうございました。他に何かございませんか。

○古賀忠委員

説明を聞いていて、幾つか疑問に思いましたが、感想としましては、意欲的な高い目標が掲げられていて、施策については充実した立派なものだと評価しています。ただし、

今後の国における事業の採択や、予算化を図っていく段階で、どのような手続きを踏んでいくのかという点、あるいは、仮に事業が採択されない場合、毎年、事業をローリングさせていく中で目標は変わっていくのかという点、一番聞きたいのは、どれが採択される可能性が高いのかということです。また、今後、事業の採択に向けてどのような努力をされるのかを教えてください。

■橋本副座長

ありがとうございました。事務局お願いします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

はじめに国の状況ですが、地方創生の交付金につきましては、26年度の補正予算の時点で久留米市に対して1億7千万円ほどの交付があり、それにプラスして、現在要求中ではありますが、上乘せの交付金が5千万円ほどございます。現在、国では28年度の概算要求の段階でありまして、その中では、1千億円規模の国の予算が、現時点での概算要求として上がっています。このような中で、どの事業が交付金対象として採択されるかというのは現時点では分かっておりませんが、国は全国に先駆けた取り組み、先駆的な事業を採択するという表現をしておりますので、久留米市としましては、特に久留米独自の魅力ある取り組みについて、採択に向けた最大限の努力をしていきたいと思っております。また、個々の事業につきましては、予算編成をしていく中でより具体化を図っていくことを考えているところでございます。

■橋本副座長

よろしいでしょうか。

○古賀忠委員

追加で、あえて伺いますけれども、「これは是非」という重点項目は幾つかありますでしょうか。

■橋本副座長

それでは、事務局お願いします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

今回、新たに設定しました「キラリ政策パッケージ」が最優先の課題であると考えております。その中でもやはり雇用に関わるもの。若者の流出の防止でありますとか、結婚出産を実現するでありますとか、UJターンを促進するということの前提に「安定した雇用」があると考えております。そのため、耳納北麓エリアを推進のエンジンと位置づけて、最大限の努力をしていきたいと考えております。

■橋本副座長

よろしいでしょうか。他にございませんか。

○佐藤清一郎委員

国の基本的な考え方としては、地方で何が出来るのかを地方自らで考えて、自らやるのですよという方向であろうと思います。そうしますと、補助金や交付金があるほうが、ないよりもずっといいのですが、我々の決意としては、例え国からの補助がなくても自分たちはここまでやるんだということを、行政だけではなくて民間も金融機関も、あるいは大学その他、地域の人たちが自分たちの将来のこととして考え、コミットして取り組むことが大切でありまして、基本的にそれに補助が出ればなおさら良いという考え方がいいのではないかと思いました。

■橋本副座長

それでは、事務局お願いします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

ご指摘の通りであると思っております。先ほど説明させていただきましたのは、国の1千億円程度の交付金についても出来るだけ獲得するというところでございますが、戦略に掲げる取り組みの実現に向けましては、交付金だけでは到底達成できませんので、先ほど説明させていただきました耳納北麓のパッケージにつきましても、交付金とは別に、それぞれの省庁が準備する補助事業などを含めて、様々な対策や働きかけを行いながら、より効果的に取り組んでいきたいという趣旨でございますので、国の交付金などが全ての前件にあるわけではないということで認識しております。

■橋本副座長

よろしいでしょうか。他にございませんか。

■深井副座長

少し補足させていただきますと、先ほども申し上げましたとおり、新しい交付金で全ての国の支援をもらうという事ではございません。戦略に掲げる全体の取り組みを進めることで、久留米の活性化を図るという話でございますので、ハード系の事業も多く入っております。全体の取り組みを進めていくことで雇用も経済も移住も進めていこうというスタイルにさせていただいております。従いまして、新たに作られる交付金以外でも、従来の補助金や交付金で活用できるものはあると思っておりますし、その様なものを活用する上でも、久留米市は産官学全体でこのようなことに取り組んでいくということを示すことは、とても後押しになると思っております。そういう面も含めて、国の支援についても使えるものは使いながら、地元の関係機関の皆さんのご理解とご協力をいた

だきながら取り組みを進めていくというのが今回の創生総合戦略の狙いであるという理解をしています。

■橋本副座長

他にございませんか。

○甲斐能枝委員

雇用の話が出てきましたが、今ある久留米での企業の働き方がどのようになっているのか、マッチングしていないという現状があるのであれば、地元の企業における働き方を改善するという取り組みが、少し足りないのではないか思ったところでもあります。また、女性の活躍について盛り込まれていますが、誰もが働きやすい環境が整備されることが、さらなる女性の活躍にもつながると考えておまして、働き方を少し改善するという視点も入れていただきたいと思ったところです。

■橋本副座長

その点について、触れているところがあれば紹介をお願いいたします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

12ページのワーク・ライフ・バランス応援事業で、企業訪問体制の強化について盛り込んでいます。これは若年者の雇用についても同じですが、企業への訪問体制を強化いたしまして、市から年間200社ほどを企業訪問させていただき、若年者の雇用でありますとか仕事と子育ての両立支援、女性の活躍の促進、そのようなものにご理解をいただくための取り組みをさせていただくこととしております。それから、女性の活躍の促進についても、まずは希望する女性が就業を継続できるように、結婚出産を機に辞めざるを得ないという状況が出来るだけないように、経営者向けのマネジメントセミナーや従業員向けの講座の開催、女性の再チャレンジ応援などについて、働きかけをより強化することで、企業の皆さまのご理解もいただきながら取り組みを進めてまいりたいと考えております。

○甲斐能枝委員

女性に特化するのではなく、若年者や高齢者についても総合的に考えて、働きやすい職場を作っていくと結果として、女性も働きやすくなる。逆に、女性の活躍を進めるためには、職場での働き方全体が変わらないと進まないということがありますので、女性のためだけでなく全体の働き方について、総合的な視点で進めていただきたいと思いました。

■橋本副座長

ありがとうございました。他にございませんか。

○内田幸子委員

市内の大学生の市内企業への就職率を上げるということがプランにあがっているのですが、弊社においては、インターンシップをしたいという希望があがってくるのは、福岡の大学の学生さんが多いという現状があります。大学側から積極的に学生さんに勧められている大学もあるようで、そういう面では、久留米の大学からの希望が少ないと感じているところです。若い方の気持ちを察すると、地元より福岡、福岡より東京というように、都市部の華やかなところに目が行くのは理解できる部分もありますが、そう思っていたとしても、いざインターンシップで地元の企業に足を運び、そこで地元の企業の温かさや良さを体験すると、「こういう選択もあるのかな」と考えるきっかけにもなると思います。市内の大学が地元の企業へのインターンシップを積極的に進めていただいて、企業側も積極的に受け入れさせていただいて、市内の学生は、まずは市内企業での仕事を体験していただくという機会が増えていくと、市内企業への就職率も少しは上がっていくのではないかと感じたところです。地方の中小企業は、大手や都市部の企業と比べると、雇用条件面にしても及ばないところはありますが、地方の中小企業なりの良さや温かさなどは都市部の企業には無いものがあると思いますので、そのことをまずは体験していただくためにも、積極的に働きかけていただきたいと思います。

■橋本副座長

ありがとうございました。事務局からありますか。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

この件につきましては、経済雇用の専門分科会でも多くのご議論をいただきました。久留米市の学生が、久留米市の企業に就職しない理由の中で多いのは、出来れば久留米市で就職したいという気持ちがあっても自分に合う仕事がないということや、地元の企業を知らないということでありました。そのようなことから、戦略の11ページに地元で就職したいという学生と企業がつながることを目指し、学生・企業 Win2 事業と名づけさせていただいておりますが、地元就職を促進するための協議会を関係団体の皆さまと設置させていただきまして、効果的なインターンシップや、地元就職コーディネーターの配置によるマッチングなどを行うことで、地元で就職したいという学生の希望がかなうような取り組みをさせていただきたいと考えているところでございます。

■橋本副座長

他にございませんか。

○鹿田哲委員

2点ご意見させていただきます。1点目は、甲斐委員と内田委員のご発言と重複しますが、簡潔に申し上げますと、やはり雇用においては若い方々が魅力をもつ、関心を持つ久留米であっていただきたいと思います。大企業のように賃金が高くなくてもそれを補って余りある、良好な人間関係、素晴らしい自然環境や住環境、そういう面をしっかりとPRしていただいて、若い方々が定着し、そこで暮らしていくという環境を将来に渡って作り上げていただきたいというのが1点目でございます。

2点目は、総論的になりますが、戦略の36ページにあるように総合戦略の推進に当たっては、やはり地域が一体となった市民や企業との協働による取り組みが不可欠であろうと思います。しかし、機運の醸成と申しますか、なぜこのような「まち・ひと・しごと創生」ということで取り組む必要があるのかということが、市民に浸透していないのではないかと思います。なぜ、少子化や人口減少が問題なのかを考えると、別に人口が減ってもいいのではないのかという人もいるわけでありまして。その様なことを踏まえて、少子高齢化がもたらしている問題点、福祉分野を中心に、医療・介護・年金も含めて財政を圧迫しているという問題点を住民の皆さんも含めて認識するということと、こうした創生会議などでの意見を踏まえて、戦略において掲げられた取り組みについて地域一丸となって実現していこうという機運を醸成することが大切であろうと思います。

■橋本副座長

ありがとうございます。永田委員ございませんか。

○永田見生委員

学生にとりましては、就職が一番大きな問題でありまして、大学を出ても就職率が悪いということでは学生は集まってこないわけです。久留米大学は昨年の就職率が95%でしたが、それについては色々と努力をしております、就職合宿などに取り組み、そこでは面接のやり方などの練習をしております。インターンシップもその一環であります。学生が希望する就職先は銀行や新聞社、金融機関などが多いという現状がありますが、地元の企業についてあまり知らないのではないかと多々あります。その様なこともありまして、今年は、大学1年生から企業を訪問して、色々な経験をしてもらっています。インターンシップは3年生でやりますが、もっと早期から色々な経験を久留米市内でさせたいということで、その様な取り組みをはじめました。久留米大学としても久留米を素晴らしいまちにしたいということで取り組んでいるところであります。

■橋本副座長

ありがとうございます。坂井委員ございませんか。

○坂井猛委員

建築系の都市計画を専攻しておりまして、大学では新しいキャンパスの担当をしています。戦略を拝見して目に留まりますのは、久留米を知って感じてもらうとか、安心な暮らしを守るというところでございます。久留米では中心市街地のプラン作りもお手伝いさせていただいており、久留米のいいところはたくさんあると感じております。戦略もきれいに整理されていますが、もう一つ知りたいと思いますのは、何が売りなのか、一言で言うとうなるのかということです。

また、5番目の基本目標として「広域拠点の役割を果たす」ということで、「連携中枢都市として大都市圏への人の流れを食い止める」という表現がありますが、これは大変わかりやすい方針を示されていると思います。これはどういうことかということ、戦略の34ページと35ページに、MICEの誘致とか高次の都市機能の集積とか、いわゆる都市の魅力を高めていくことによって人の流れを食い止めるということですので、文言をもう少し「魅力を増す」という主旨の表現を加えられるとより分かり易いかなと思いました。

全体としては、久留米は「水と緑の人間都市」というキーワードでこれまでまちづくりにハードも含めてしっかり取り組んできています。緑についても、他の都市と比べても多い方ではないかと思えます。建物については昭和時代に作られたものがだんだん古くなってきているので、バージョンアップさせていく必要があるのではないかなと思います。なぜならば、人が久留米に来ようかなと思うとき、都市圏レベルで久留米を見たとき、あるいは、久留米から外に出て行かれた人たちが久留米を見たときに、ハードウェアの面でまちがきれいになっていないと魅力が半減してしまうからです。いくら仕事がたくさん創出されても、きれいでなく、ちぐはぐなまちというのは良くないと思いますので、仕事柄そのようなことを述べさせていただきます。

■橋本副座長

ありがとうございます。他にございませんか。

○佐藤有里子委員

女性の雇用面でのお手伝いもさせていただいておりますが、その中で感じることで、病児保育を是非とも増やしていただきたいと思っています。お金もかかることなので大変だとは思いますが。しかし、起業したい女性や就職したい女性がたくさんいるなかで、子どもが病気をしたときには休まざるを得ないという環境にある人は、どうしても就職が決まらないということがあり、私たちがお手伝いさせていただく中での大きなネックになっているので、是非とも病児保育について考えていただきたいと思いました。

■橋本副座長

ありがとうございます。この点について事務局から何か補足がございますか。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

大変重要なテーマであると考えておりました、戦略14ページ「子育てつよーいみかた事業」のなかで、緊急的・一時的保育ニーズに対応するための病児・病後児保育や一時預かり保育の拡充ということで、重点的に取り組んでいきたいということを記載させていただいております。

■橋本副座長

他にございませんか。

○吉岡マサヨ委員

雇用の安定という部分では、子育ての待機児童の解消ということも大きな問題だと思います。それは保育士さんの不足の部分が多いと思いますが、そこでも雇用は生み出せるとお思いますので、久留米市で取り組んでいただきたいと思いました。同じ理由で介護職や医療職の雇用についても、仕事はあるけれども長続きしないという現状もありますので、新たな就労環境づくりをしていただきたいと思っております。先ほど病児保育のことが出ましたが、先日、私どもネットワークに、その件での問い合わせがありました。「急に妻が入院して子どもが病気なので、市役所に問い合わせをしたけれども、何も教えてくれなかった」という内容でした。病児保育の情報を行政の窓口で紹介してもらえないというのも問題があるのかなと思いました。サービスがきちんと市民に届くようなシステム作りもしていただきたいと思います。

■橋本副座長

大変、貴重なご意見でございました。ありがとうございました。

他にございませんか。

○農塚博俊委員

新たな産業拠点の整備という方向性は良いと思いますが、今でも久留米に進出したいという企業は結構ありまして、それなりの土地を希望されるのですけれども、私たちが聞くところでは、久留米では農地の土地利用規制が強いために、なかなか希望されるところに行かないというケースが多いようです。産業拠点の整備というのはどれくらいの規模を考えているのかというのが一点目の質問でございます。

また、久留米での就農応援事業とありますが、就農するための研修だけに限るのか、それとも土地の提供まで含めて就農支援をするつもりなのかを教えてくださいたいと思います。

■橋本副座長

それでは事務局よりお願いします。

■事務局（徳永商工観光労働部長）

久留米市内にはこれまで様々な産業団地をつくってまいりましたけれども、ご指摘のとおり、企業の進出が進んでおりまして、現在残っている団地としましては、藤光産業団地の4ha弱となっています。そういう意味で、今回の計画において、耳納北麓のグリーンアルカディア創生パッケージの中で、新たな産業拠点という形で、市東部の、現在ダイハツ工業等が進出しております付近に、隣のうきは市と合同で新たにつくってはどうかという計画を持っているところでございます。規模としては、分譲ベースで20～30haくらいの広さのものを考えているところでございます。

■事務局（森山農政部長）

産業団地に関係する土地利用規制について、どのように考えて対応しているかということでは、農地は久留米にとってまさに重要であり、また、産業団地も重要であるという両方の視点を持っております。産業団地をどのようにつくっていくかを考えるにあたっては、表現が正しいかどうか分かりませんが、土地利用規制をどのようにクリアするか、様々な知恵を出しながら産業団地と農業振興の両方大事であるという視点を持ちつつ取り組んでおりますので、少し厳しいところもございますが、ご理解いただければと思います。

ご質問の就農者支援サービスについて、今回提起しておりますのは、必要な土地についてのご相談も受けるというイメージを持っております。また、委員の皆さまからのご提案もありましたが、市内で活動される農業法人の中には、「就農希望者を自分のところに預けていただければ一人前に育てるよ」というご意見もありましたので、それを踏まえて提案させていただいたところでございます。事例として、法人で農業の経験を積まれて、久留米で就農される例も出てきていますので、そのような事例も参考にしながら雇用の創出に繋げていきたいと考えているところでございます。

■橋本副座長

よろしいでしょうか。他にございませんか。

今回は、今後のためのご意見や、もう少し文言等を考えてはどうかという意見も含めたくさんのご意見をいただきました。今回の意見も踏まえて、現在とりまとめております計画については再度確認させていただきたいと思っております。また、その修正、反映等につきましては、座長、事務局に一任いただいでよろしいでしょうか。

（委員了承）

それではその様にさせていただきます。ありがとうございました。

■橋本副座長

それでは今後の流れについて事務局から説明をお願いします。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

本日の原案につきましては、ご意見等についての整理や必要な文言等の修正をさせていただき、市議会に説明した上で、最終決定とさせていただきたいと考えております。

その後、今月末までに国、県へ提出いたしまして、ホームページ等での公表、市民の皆様への周知、その様な手続きを進めてまいりたいと思います。

■橋本副座長

今後の流れについての説明であります、何かございますか。

それでは次第の4その他について、事務局から何かありますか。

■事務局（甲斐田総合政策課長）

総合戦略策定にあたっての創生会議は、本日でいったん区切りとさせていただきたいと考えております。

その上で、来年度以降、本戦略のフォローアップが必要でございますので、市民や関係団体の皆様などに参画いただきまして、基本目標やKPIの達成状況を検証していくこととしております。

そこで、この創生会議の皆様には、戦略の検証につきましても、また、あらためてご相談させていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。以上です。

■橋本副座長

それでは最後に、座長であります、榑原市長よりご挨拶申し上げます。

○榑原市長

市長の榑原でございます。

委員の皆様におかれましては、たいへんお忙しい中、本日も貴重なご意見、ご提案をいただきまして、誠にありがとうございました。

そして、これまでの検討の経過で報告させていただきましたように、本日もご参加いただいております、各委員の関連組織等の皆さま方にも、分科会など様々な場面でこのプランの策定についてご尽力賜りまして、心から感謝を申しあげたいと思っております。

今後は所要の手続きを踏みまして、長期的な展望のもとで、総合戦略の実現に向けて取り組んでいくこととなりますが、少なくとも今後5年間は人口を減少させないという目標を掲げさせていただきました。日本全体が人口減少に向かう中で、これは決して容易な目標ではないと思っております。しかし、2005年から2010年の国勢調査の中で人口が5,000人ほど減り、そして、2010年から2015年までにまた5,000人減るという前提での人口問題研究所の推計では、既に2015年の久留米市の人口は29万7千人になっていたはずですが、今現在、住民基本台帳で30万6千人、そして、おそらく国勢調査では、30万2千人の人口になるかと思っておりますので、既に、人口問題研究所の推計より久留米市の人口は5千

人ほど上回っております。そういうことで、今後 5 年間全力で人口減少に向かっていく、久留米市の将来が開けるようなまちづくりを、この「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいて全力で取り組んでいきたいと思っております。

このプランにつきましては、地域全体の目標として市民の皆さま方にそれを認識していただく必要がございますし、取り組みを進めるためには、これは行政だけで出来るものではございませんので、産官学金労言等、多くの皆さま方、本日ここにご参加いただいております、各団体の代表の皆さま方をはじめ、多くの方々との協働のもとで、地域の総力をあげて取り組んでいく必要があると思っておりますので、今後とも、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

来年の4月には、いよいよ久留米シティプラザがオープンするわけでございまして、久留米市が、これからも「選ばれる都市」として持続的に発展ができるように、全力を挙げて取り組みたいと思っております。そして、特に情報発信という話もいただきましたけれども、久留米のまちの素晴らしさを多くの方々に広く知ってもらうために重要なことであると、本日も再認識したところでございます。

本日、ご臨席の皆さま方のお力をお借りしながら、総力を挙げて情報発信等も努力していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

まずは、皆さま方のご尽力に感謝申し上げますとともに、今後の積極的なご参画を再度お願い申し上げまして、お礼の挨拶とさせていただきます。

どうも、ありがとうございました。

■橋本副座長

それでは、以上を持ちまして、「第2回久留米市まち・ひと・しごと創生会議」を終了いたします。長時間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

以上 (17:40 終了)